

監修

高木市之助
山岸徳平

久松潛一
小島吉雄

源氏物語 七

池田龜鑑校註

監修

高木市之助
山岸徳平

久松清一
小島吉雄

源氏物語

七

池田龜鑑校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

日本古典全書

「源氏物語」七 池田龜鑑校註

昭和三十年十二月二十日初版發行

昭和四九年三月三十日第十六刷發行

印刷所 明善印刷株式會社

發行所 朝日新聞社（東京都千代田區

有樂町・大阪市北區中之島・北九

州市小倉區砂津・名古屋市中區榮）

定價 七〇〇圓

池田龜鑑（いけだきかん）

明治二十九年鳥取縣生。昭和三十

一年歿。東京大學國文學科卒業。

東京大學教授。主著—宫廷女流日
記文學、古典の批判的處置に關す
る研究、源氏物語大成等。

目 次

凡

系

本

浮

文

舟

圖

例

三
七

三

一、匂宮浮舟に關し中君を怨む、中君默

して言はず

三

二、薰のどかに構へて浮舟を放置

四

三、中君薰の好意を理解、猶遠ざからん

五

四、正月宇治より鬚籠を贈り来る、匂宮

六

五、怪しむ

七

六、匂宮宇治よりの文を開き見る

八

七、匂宮浮舟の文と悟る、中君憂慮

九

舟等見ゆ

一

二

三

四

五

七、匂宮大内記より薰の秘密を聞き出す

一〇

八、匂宮大内記に謀り、宇治に赴かんと

三

九、匂宮ひそかに宇治に赴く、大内記そ

三

の他扈從

三

一〇、匂宮宇治の家に到着、内記先づ様子

三

を探る

四

一一、匂宮格子の隙より覗く、童女右近浮

五

舟等見ゆ

六

- 一二、匂宮の隙見、女房等浮舟の外出をとどむ……………三
 一三、女房等浮舟を中君に比較、浮舟とどむ……………三
 一四、匂宮中君と浮舟を比較、浮舟主従寝に就く……………三
 一五、匂宮薰を裝つて浮舟に近づく、右近等退く……………七
 一六、浮舟匂宮と氣づく、宮胸中を訴へ相共に泣く……………元
 一七、翌朝匂宮歸京を延さんと主張、右近宮と知り觀念……………三〇
 一八、右近内記を詰問、時方に匂宮の命を傳ふ……………三
 一九、右近人々に匂宮を薰と偽る、内心不安……………三
 二〇、侍女等石山詣の中止を残念がる……………三
 二一、右近物忌と偽る、浮舟匂宮の愛を肯定……………三
 二二、母君より迎への車來る、右近偽りて返事……………三
 一二三、春日駘蕩、田宮浮舟互に相手の美を認識……………三
 一二四、匂宮男女の繪を描きて與ふ、浮舟猶素性を告げず……………三
 一二五、時方歸參、右近に京の騒を告ぐ……………三
 一二六、右近匂宮に取次ぐ、匂宮薰の恨を思ふ……………七
 一二七、匂宮浮舟に名残を惜しみつつ宇治を立つ……………三
 一二八、匂宮浮舟の事とは言はず中君をうらむ……………元
 一二九、明石中宮より督促の御文、匂宮なほ參内せず……………四
 一三〇、薰來訪見舞を述ぶ、匂宮浮舟を思ひ續く……………四
 一三一、匂宮宇治に文及び使者を遣す、右近の偽り……………四
 一三二、匂宮宇治行不可能、焦慮の日を送る……………四
 一三三、薰宇治に赴く、先づ寺に詣で夕方浮舟を訪ふ……………四
 一三四、薰の愛情、浮舟匂宮を比較し煩悶……………四

- 三五、薰京に迎へんことを告ぐ浮舟匂宮の 言を思ひ泣く……………四
- 三六、薰亡き大君を思ひ浮舟を慰む、宇治橋の和歌……………五
- 三七、二月内裏の詩會、匂宮梅が枝を詠ふ……………四
- 三八、薰宇治の橋姫の古歌を吟ず、匂宮心騒ぐ……………五
- 三九、翌日披講、匂宮薰に對する講辭……………四
- 四〇、匂宮不安の餘り雪を冒して宇治に赴く……………五
- 四一、匂宮夜更けて來訪、右近侍従を語らひ歎待……………四
- 四二、早朝匂宮浮舟を對岸に伴はんとす、右近狼狽……………五
- 四三、匂宮橋の小島に永き愛を誓ふ、浮舟返歌……………四
- 四四、對岸に到著、匂宮自ら浮舟を抱き下す……………五
- 四五、匂宮打解けたる浮舟の姿を賞翫……………五
- 四六、匂宮侍従に口止、時方宿守を指圖す……………五
- 四七、匂宮薰に關して浮舟を怨む、時方に不例に驚く……………六
- 四八、夕陽山雪を照す、和歌唱和、中宮の咎め……………五
- 四九、宇治河畔隱家第二日、匂宮孰心まさる……………五
- 五〇、匂宮歸京不例、浮舟亦宮を忘れず……………五
- 五一、匂宮より來信、浮舟宮薰雙方に惹かれて煩悶……………五
- 五二、薰より來信、浮舟匂宮の文のみ見る……………五
- 五三、故々しき薰の文、侍女等先づ匂宮への返書を勧む……………五
- 五四、浮舟より返書、匂宮よよと泣き、その面影を追ふ……………五
- 五五、同じく薰への返書、薰つくづくと見る……………五
- 五六、薰女二宮に浮舟を引取りたき旨を打明く……………五
- 五七、匂宮薰の計畫を探知、浮舟を引取らんと構ふ……………六
- 五八、薰の迎への日決定、母君浮舟を訪れ……………六

- 五九、浮舟の母辨の尼を呼び娘の身の上を案す
六〇、浮舟母の語るを聞き、わが悲運を歎く
六一、母こまごまと注意して歸京、浮舟墓を述べ
六二、薰匂宮よりそれぞれ來信、切なる思を述べ
六三、薰匂宮の使者再び來合す、薰の使者の直感
六四、薰の隨身秘密を探知、薰六條院に參進
六五、薰六條院にて匂宮の女の文に熱中するを見る
六六、薰隨身より紅の文の秘密を聞く
六七、薰心に匂宮の行爲を非難、浮舟に失望
六八、薰猶浮舟を諦めず隨身を遣す
六九、薰より波越ゆるの文、浮舟言ひ逃る
七〇、右近姉の例を引き浮舟に意見、侍從勾宮を勧む
七一、右近薰の警戒の嚴なるを言ふ、浮舟愈々煩悶
七二、内舎人薰の嚴命を傳へ警困を注意
七三、浮舟身の破滅近きを悟りひそかに死を決意
七四、死後を慮り文穀を水火に投す
七五、匂宮より文、浮舟の悲歎に右近の諫言
七六、匂宮返書なきに不審、堪へられず宇治を訪ふ
七七、警戒嚴、右近入れず、時方侍從に折衝
七八、匂宮物蔭に侍從と對面苦衷を訴ふれど詮なし
七九、警戒の聲、匂宮やむをえず歸京せんとす
八〇、浮舟愈々煩悶、匂宮を戀ひまた薰を想ふ
八一、母兄弟中君を戀ひ、死の近き身を歎
八二、匂宮への最後の返歌、薰には思ひ止く

まる……………六

八三、母より來信、浮舟の身を案じ自愛を

勵む……………七

八四、浮舟母に宛てて最後の歌を詠す……七

八五、乳母右近夫々に心配、浮舟涙を隠し

て臥す……………八

蜻

蛉

九

一、浮舟失踪に人々困惑、右近等投身と

推察す……………九

二、浮舟の覺悟を知り右近の悲歎、乳母

我を失ふ……………九

三、匂宮使を遣し浮舟の死を知る、更に

時方を遣す……………九

四、時方右近に消息、侍従に會ひて様子

を聞く……………九

五、時方侍従より強ひて眞相を聞出さん

とす……………九

六、母君宇治に來り、死因を思ひめぐら

す……………九

七、右近等投身の由を打明け、葬送の用

意をなす……………九

八、右近等人々の反対を押切り簡単に火

葬を終る……………九

九、右近等秘密の漏洩を恐れ固く人々を

いましむ……………九

一〇、薰石山參籠中浮舟の死を聞く、宇治

に消息……………九

一一、薰浮舟を放置したるを後悔、歸京後

勤行に專心す……………九

一二、匂宮悲歎、薰の疑心深まる……………九

一三、薰匂宮を見舞ふ、互に相手の胸中を

忖度……………九

一四、薰浮舟の事を打明け、匂宮を諷刺す

一五、薰、匂宮浮舟の關係に煩悶、宇治行

を思案す……………九

一六、四月薰中君に時鳥の歌を贈る、匂宮

返歌……………九

一七、匂宮中君に浮舟のことを告白

一八、匂宮右近を迎へに時方を遣す、右近

五

承引せず……………

一〇九

一九、侍従右近に代りて匂宮の召に應ぜんとす

一一〇

二〇、匂宮侍従を引見、浮舟の死の前後を語らしむ

一一一

二一、匂宮浮舟に調へし品を贈物とす、侍従感泣

一一二

二二、薰宇治に赴く、右近より浮舟死の事情を聽取

一二三

二三、薰死因に疑惑、右近浮舟の心情を評述

一二四

二四、薰匂宮との關係を問ひ正す、右近體よく説明

一二五

二五、薰宇治の地を思ひ、浮舟の立場を諒察す

一二六

二六、薰阿闍梨に供養を命じ永久に宇治を去る

一二七

二七、浮舟の母茫然と暮す、薰より懇ろなる來信

一二八

二八、母君感泣、薰その返事を読み誠意を見せんとす

一二九

二九、母君夫當陸介に浮舟死の顛末を語り共に泣く

一三〇

三〇、薰、浮舟四十九日の法要に誠意を盡す

一三一

三一、其後の匂宮と薰、誠實さの相違

一三二

三二、薰ひそかに小宰相を愛す、小宰相同情の歌を贈る

一三三

三三、明石中宮法華八講を催す

一三四

三四、白き羅の女一宮、薰垣間見て心うごむ

一三五

三五、薰なほ凝視、下臙の侍女これを見咎め

一三六

三六、侍女困惑、薰悟り難き自己を反省、苦惱する

一三七

三七、薰心中妻の女二宮を女一宮に思ひ較ぶ

一三八

三八、女二宮に羅の單を著せ女一宮との文通を勧む

一三九

三九、薰中宮に參上、匂宮に女一宮の面影を見る

一四〇

四〇、女一宮より女二宮への文通を中宮に見せんとす

依頼.....

二三

四一、薰西の渡殿に赴く、侍女等と四方山

一四

話.....

三四

四二、明石中宮、女一宮の侍女と薰を囁す

一五

四三、明石中宮侍女より浮舟變死の事情を

一六

聞き憂慮.....

一七

四四、薰女一宮を戀ひつつ猶大君以來の女

一八

性關係を歎く.....

一九

四五、匂宮浮舟戀しさに堪へず侍従を迎へ
て語る.....

二〇

四六、侍従明石中宮に出仕、浮舟を追慕し

二一

四七、蜻蛉式部卿宮姫君の不遇、女一宮に

二二

出仕.....

二三

手

習.....

一、横川の僧都の母尼長谷詣の歸途罹病

二四

僧都下山.....

二五

二、僧都宇治院に赴く、樹下に怪しき白

二六

き物發見.....

二七

三、僧都白き物の正體を人と認む、僧等

二八

變化と主張.....

二九

四、僧等衣を剥ぎて問ふ、女顔引入れて

三〇

泣く.....

三一

五、僧都助命を主張、僧等をして内に入

れしむ.....

三二

四八、匂宮宮の君に懸想、薰亦これに關心

三四

四九、六條院に於ける中宮の御住、夕霧の

三五

五〇、秋の中宮御殿、侍従參上の匂宮薰を

三六

覗き見て感慨.....

三七

五一、薰東の渡殿を訪ひ女房等と戯る.....

三八

五二、薰女房等の輕率さに遺憾、中君を偲

三九

五一、薰西の渡殿に赴き和琴を彈きつつ女

四〇

五三、薰宮の君を訪ひその聲を聞きて却つ

四一

五四、薰宮の君を訪ひその聲を聞きて却つ

四二

五五、薰大君以來の悲戀を回想—蜻蛉によ

四三

一宮を想ふ.....

四四

五六、薰大君以來の悲戀を回想—蜻蛉によ

四五

一宮を想ふ.....

四五

五七、薰大君以來の悲戀を回想—蜻蛉によ

四五

一宮を想ふ.....

四五

目

次

七

- 六、尼君件の女の事を聞きねんごろに介抱……………一六
- 七、女折々目を開く、素性を問へど明さず……………一七
- 八、下衆來り宇治の姫君の葬送の事を語る……………一八
- 九、尼君平癒一行女を伴ひ小野に歸る……………一九
- 一〇、女の病癒えず、尼君憂慮……………二〇
- 一一、尼君心配の餘り文を書き僧都の下山を乞ふ……………二一
- 一二、僧都兄妹、浮舟の容態につき協議調伏……………二二
- 一三、僧都反対を押切り非常の修法、物怪……………二三
- 一四、浮舟意識を取り戻す、失踪當時の回想……………二四
- 一五、浮舟徐々に恢復、出家の望に對し受戒のみ授く……………二五
- 一六、天人の如き浮舟の美しさに尼君の不安……………二六
- 一七、尼君亡き娘の形見として浮舟を慈しむ……………二七
- 一八、小野の庵室の風情、秋のあはれさ……………二八
- 一九、尼君等樂器に慰む、浮舟過去を恨み未來を嘆む……………二九
- 二〇、月明の夜都をおもひ、母乳母等を懲り會はず……………三〇
- 二一、浮舟世に知られんことを恐れ、人に慨……………三一
- 二二、尼君の婿の中將小野を訪ふ、浮舟感おもふ……………三二
- 二三、尼君中將の誠意に感激、歎び迎ふ……………三三
- 二四、中將しめやかに物語、尼君亡き娘をとす……………三四
- 二五、浮舟の容體、尼達故姫君に准へ見んとす……………三四
- 二六、中將浮舟の姿に不審、少將の尼に問ふ……………三四
- 二七、尼君浮舟の心を引立てんとす……………三四
- 二八、中將弟禪師と浮舟に就て語る……………三四
- 二九、歸途小野に立寄り尼君に浮舟の素性を問ふ……………三四
- 三〇、中將浮舟に歌を贈る、尼君代りて返歌……………三四

三一、中將鷹狩の途次小野を訪ひ、尼君に意中を告ぐ	二七
三二、中將懸想の歌、浮舟答へず、人々頻りに勧む	一八
三三、中將の笛の音、尼君浮舟を裝ひ歌を詠みかく	一八
三四、母尼出づ妹尼笛に合せて琴を彈く	一八
三五、母尼心進み和琴を彈く一座興覺む	一九
三六、中將、歌に意中を訴ふ、平凡なる尼君の返歌	一九
三七、厭世的な浮舟の態度、尼君性格と諦む	一九
三八、尼君長谷詣に赴く、浮舟同行を断る	一九
三九、浮舟少將の尼に誘はれて碁を打つ	一九
四〇、中將來訪、浮舟母尼の部屋に隠る	一九
四一、母尼の傍に臥し恐怖の一夜を迎ふ、中將歸る	一九
四二、母尼の馳の目影、浮舟不安におののく	一九
四三、悲運の身を回想、匂宮に悔い薰を懲ふ	一九
四五、曉の鶏聲に母を想ふ、母尼粥を勧む	二七
四五、浮舟、僧都下山の機會に出家せんと決意	二七
四六、浮舟黒髪を愛惜、ひそかに母を想ふ	二七
四七、僧都小野に立寄り、浮舟の安否を問ふ	二七
四八、浮舟身の不運を訴へ出家を懇願して	一九
四九、浮舟の決意固し、僧都これを肯定する	一九
五〇、少將の尼狼狽、落飾遂行	一九
五一、少將等惜しむ、浮舟一途に安堵する	一九
五二、翌朝浮舟尼姿を恥ぢ手習に暮す	二〇
五三、中將浮舟の出家を知る、浮舟はじめて返歌する	二〇
五四、尼君歸庵、悲歎の中に手づから法衣を用意する	二〇
五五、女一宮平癡、僧都中宮の御前に召さる	二〇
五六、僧都中宮に浮舟發見の事情を啓上する	二〇
五七、中宮並に小宰相、浮舟と察す	二〇
五八、僧都小野に立寄り浮舟を勵ます	二〇

- 五九、中將來訪、紅葉に託し想を訴ふ……二八
 六〇、小將の尼浮舟の尼姿を中將に垣間見
 セしむ……二八
 六一、中將尼君に浮舟を請ふなほその素性
 に不審……二九
 六二、浮舟中將の挨拶にすげなく返事す……三〇
 六三、出家後の浮舟の心境、尼君に親しみ
 讀經に專心……三〇
 六四、年頭浮舟往時を回想、尼君若菜を贈
 る……三一
 六五、紅梅の香に懷舊の情とどめ難し……三一
 六六、紀守小野に來り、浮舟死去の暉を語
 る……三二
 六七、紀守薰を禮讃す、浮舟聞きて感無量
 二四
- 六八、尼君浮舟法要の衣を縫ふ、浮舟暗涙
 を紛らす……二五
 六九、薰浮舟一周忌の法要、小君を召使は
 んとす……二七
 七〇、薰明石中宮に對面浮舟の事を歎く、
 中宮沈黙……二七
 七一、中宮小宰相に薰への通告を依頼……二八
 七二、薰小宰相の話に驚愕、とるべき處置
 を熟考す……二九
 七三、薰中宮に對面、匂宮に關し内意を伺
 ふ……三一
 七四、薰僧都に問ひ小野に浮舟を訪れんと
 決意……三一
- 夢浮橋……三三
- 一、薰叡山に參り横川に僧都を訪ふ……三三
 二、薰小野に隠れ住む女について問ふ……三三
 三、僧都具さに浮舟に就て語る、薰傳言
 を依頼……三四
 四、薰僧都に意中を披瀝し小君の紹介狀
 む……三一
- 五、僧都小君を賞で小野への文を書きて
 與ふ……三〇
- 六、小野の尼達遙かに薰の行列の火を望
 む……三一

- 七、薰小君に言ひ含めて小野に遣す……………三三
 八、早朝小野に僧都より消息……………三三
 九、小君小野に來る、浮舟宛僧都の消息……………三三
 一〇、浮舟簾越しに小君を見る、感慨無量……………三三
 一一、尼君、浮舟小君を姉弟と認む、浮舟
 對面を拒否……………三四
 一二、小君浮舟の無情に失望、辛うじて薰
 の文を渡す……………三七
- 一三、尼君閉封浮舟に見す、文面委曲を盡
 す……………三八
 一四、浮舟返事を拒否、文をそのまま押返
 す……………三九
 一五、尼君小君に釋明、慰めて歸參せしむ……………三九
 一六、薰落膽、なほ諦め得ず、想像をめぐ
 らす……………三四

古本山路の露

解説

古本山路の露

- 一、序一作者が宇治十帖と同一ならぬ由
 のことわり……………三九
 二、浮舟居處判明後、薰その動靜を知ら
 んと焦慮……………三〇
 三、薰女二宮を訪ひ、ひそかに浮舟をお
 もふ……………三一
 四、薰中君と漸く疎遠、故大君の面影を
 求めて悲しむ……………三一
- 一一、尼君閉封浮舟に見す、文面委曲を盡
 す……………三八
 一二、浮舟返事を拒否、文をそのまま押返
 す……………三九
 一三、尼君小君に釋明、慰めて歸參せしむ……………三九
 一四、薰落膽、なほ諦め得ず、想像をめぐ
 らす……………三四

- 九、浮舟小君に逢ふ、母へ文を託し薰には拒否三六
- 一〇、姉弟睦び語る、小君尼等の勧を斥け下山せんとす三七
- 一一、小君夜半過ぎて歸参、近火の騒ぎあり三八
- 一二、黎明、小君を召し、浮舟に就ての報告を聽取三九
- 一三、薰母宛の浮舟の文を披見、小野行の意を決す四〇
- 一四、薰夕霧を分け小野に赴く、山月澄み昇る四五
- 一五、浮舟月を仰ぎて懷舊、薰その袖を捉ふ四五
- 一六、薰縷々と浮舟失踪後の心情を述ぶ、浮舟泣く四五
- 一七、浮舟歌を以て僅に答ふ、薰なほ語りて盡きず五六
- 一八、秋夜風情を盡し互の情増る、人々観きて賞歎五六
- 一九、薰ねんどろに語らひ曉の露を分けて望む五六
- 二〇、浮舟薰の文に泣く泣く返歌す、薰感慨無量五六
- 二一、薰右近を迎へて事實を告げ、ありし次第を聽取す五七
- 二二、右近常陸邸を訪ふ、守只管薰の恩顧を謝す五七
- 二三、右近母北方に浮舟の文を渡す、母驚愕狼狽五七
- 二四、右近浮舟訪問の日を約す、母北方小君と語る五七
- 二五、母北方浮舟を訪ふ、涙に溺れ互に言葉なし五七
- 二六、母北方尼君に對面、尼君初めよりの仔細を語る五七
- 二七、右近浮舟に近寄り出家を歎きかつ恨む五七
- 二八、浮舟、匂宮薰の動靜を聞き我が身を反省す五八
- 二九、浮舟母娘徹宵懇談、母京へ迎へんと

三四、母北方無量の思を抱きて下山、浮舟勵行に専心す	二六四	三四、小野に冬來り雪降る、浮舟薰の消息に返歌	二七七
三一、薰右近の報告を聽取し浮舟の心情をあはれむ	二八四	三五、薰浮舟の處置につき思案、猶世事に紛れて過す	二八八
三二、その後の匂宮の動靜、中君を愛し若君を慈しむ	二八五	三六、歳暮薰と母北方より懇ろなる贈物、尼等深謝す	二九一
三三、薰左大將兼内大臣に任ず、女二宮懷姫	二八七	三七、薰中君に對面歳暮の挨拶、猶小野の事情を秘す	二九三
源氏物語年立	二九三		
凡例	二九四		
年立	二九五		

源
氏
物
語

七

池

田

龜

鑑